

第 21 回 PSV（ピア・スーパービジョン）報告

2018 年 2 月 3 日（土）当日は 27 名の参加者を迎えて行われました。前半は心理福祉学科助教の小沼聖治先生による講演が実施されました。

「実践における『ゆらぎ』を専門職としての成長につなげるために―見習いスーパーバイザー奮闘記より」と題して行われた講演では、小沼先生のご専門である精神保健福祉領域での現場経験から、「援助者、クライアント、家族が経験する『ゆらぎ』とは何か？」について言及され、参加者一同、深い示唆とヒントが与えられました。『ゆらぎ』は社会福祉実践の現場での原点であり、『ゆらぎ』と向き合うなかで多角的な視野と“しなやかなかわり”。また『ゆらぎの言語化』から『ゆらぎを活用する糸口』を見出していく必要性が語られました。そのプロセスでバランスのとれたスーパービジョンが不可欠であるとの説明がありました。『ゆらぎ』ことのできる力を基に、これからの援助者（ソーシャルワーカー）としての在り方について考えることができたように思います。

後半は、日頃、現場で働いているなかで感じていること、また各々の現場で抱えている個別の事例や課題を通じて、自由な雰囲気の中で意見交換が行われました。参加者はグループのいろいろな人の話や意見、アドバイスに耳を傾け、話し合うプロセスなかで、お互いのそれぞれの悩みや問題点を共有することができる良い機会となったようです。

今回で第 21 回目を迎えたピア・スーパービジョンは、保健・医療・社会福祉現場や一般企業で対人援助の仕事をしている人たちが、日頃の実践に必要な“かわり”について見つけ直し、お互いに知り合い、情報交換を行うための研修と交流のプログラムとなっており、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターと SWnet（聖学院ウェルフェアネット―卒業生を中心とする福祉のネットワーク）による企画運営の共催で行われています。これまで毎年、年に 2 回のペースで開催されてきました。次回、第 22 回のプログラムは 2018 年 10 月 13 日（土）を予定しています。

〔2018 年 9 月 27 日（木）記〕

山田裕太（SWnet・人間福祉学科 卒業生）